

老人クラブ活動推進リーダー養成講座(第2回)
～「通いの場」づくりの重要性を学ぼう～

《 萩会場 》

各グループが考えた「通いの場」一覧

「通いの場」の内容	「通いの場」が持つ機能	「通いの場」をレベルアップするには？
・自宅をカフェにして集まれる場所をつくりたい ・誰もが行けるカフェのような場所に囲碁・将棋などが置いてあると良い ・週1回集まると良い ・老人会に入会しない人をどういう風に誘うか	居場所、健康づくり、認知症予防、見守り、相談、情報提供	・生活支援活動－連絡訪問、隣の見守り(守秘義務、安心カードの普及) ・社会参加活動－防災・交通安全の学習、認知症の知識 ・ボランティア活動－自己評価、誰かのために役に立ちたい(生きがいを感じる)
保育園、小学校(低学年)、お年寄りを含めた混合サロン	見守り(子ども、高齢者の見守り)	サロンは一人ひとりが主役であるが、わき役(準備する人、声をかける人)が必要。 ・子どもたちの見守り隊 ・高齢者の見守り隊 ・近所の方への声かけ(参加者を増やす方法)
「いきいきクラブ体操」の普及。 ・若い人に入ってもらうきっかけに。 ・参加者同士、仲良くなったらカラオケ、会食など活動を広げていく ・防災や交通安全など勉強会の開催 ・地域の伝承活動、祭り行事、小学校等との関わり	居場所、健康づくり、交流、認知症予防、学習、交通安全	会に来れなくなった人こそ大切に！ ・仲間同士で友愛訪問「どうしたんかねー」と家に寄ってみる、声をかけてみる。 ・その地域に以前から住んでいる人に地域の昔からの行事や祭りごとの話を聞いてみる。
週1回お茶おしゃべり会 ・最初は少人数 ・手作り作品など簡単な内容 ・集まって来ない人にも声をかける、なるべく自然体で集まれるようにする ・グラウンド・ゴルフなども週1回くらい。DVD、レコード鑑賞、コーラスなど。	居場所、健康づくり、認知症予防、情報提供、相談、社会参加活動、ボランティア	・近くの介護施設の職員を招き、健康づくり、認知症予防、悩み相談などを実施。 ・来られなくなった人には、声かけをすること、日常からいつもコミュニケーションをとるようにすることが大切。 ・ちょっとした困りごとの解決(お手伝いや掃除等)は、3～5人くらいで、負担にならないよう続けることが大切。

老人クラブ活動推進リーダー養成講座(第2回)
～「通いの場」づくりの重要性を学ぼう～

《 萩会場 》

各グループが考えた「通いの場」一覧

「通いの場」の内容	「通いの場」が持つ機能	「通いの場」をレベルアップするには？
・公民館、公会堂等を活用 ・男女が集まれる場所 ・日常的に通える場 ・使用料が安いこと 事例「下関市豊浦町老人福祉センター」 ⇒温泉あり、休憩室あり(基盤あり)	居場所、交流、健康づくり	・他の関係団体と連携して、相乗効果を図り、無駄を少なくする。(社協関係団体、民生委員、自治会、地域づくり協議会) ・行政の経済的な協力⇒補助、免除に関すること
男女の集まりの場をつくる。 公共の場所を活用	友愛訪問 ⇒独居老人対策(元気づけ、会話(愚痴を聞く、楽しむ)、プレゼント(竹細工など) 民生委員、老人会役員、近所の人などと連携して、週1回の訪問を実施。	・「交流の輪」を広げることが重要。 ・一人ひとりの和を大切に ・情報収集、情報提供を行う。
集落の公民館で隣近所が気軽に話し合える場所	居場所、交流、健康づくり、見守り、認知症予防、見守り、相談、情報提供、学習、友愛訪問、ボランティア活動、生活支援活動、社会参加活動、防災活動、交通安全を実施	・参加しない人の参加をどうするか ・急に欠席がある場合、なぜ来れなくなったか確認する ・心配事について、気楽に話せる場所が必要 ・災害時について、指定された場所が遠い場合、近所に確保 ・集会所へ来れない人の送迎を行う ・男性の集まりがないのは酒がないから ・地区単位のサロンは実施するが、地区全体で交流を図る

老人クラブ活動推進リーダー養成講座(第2回)
～「通いの場」づくりの重要性を学ぼう～

《 萩会場 》

各グループが考えた「通いの場」一覧

「通いの場」の内容	「通いの場」が持つ機能	「通いの場」をレベルアップするには？
月1回の生き生きおしゃべりサロン	交流、おしゃべり(情報提供)、健康づくり(ゲーム、ぬり絵、間違い探しなど)	声かけ運動を行う ・集まってくる人の現況や、欠席者の理由等を把握し、その原因や解決策を検討し、対処する。 ・「声かけ運動」を加えた理由としては、現在、地域コミュニケーションがなくなりかけており、その一歩として各種行事への参加を声かけすることにより、健康・安否確認もでき、又孤独から少しでも回復できると思うから。
男性も参加しやすいサロンを立ち上げたい(囲碁、将棋、工作(ものづくり)、マージャンなどを取り入れて)	居場所、交流、健康づくり、認知症予防、見守り、相談、情報提供、学習	・経験のある有能な指導者を呼ぶ。 ・活動しているサロンの情報交換を行う。数箇所のサロンを合同して行いたい(輪を広げる) ・輪を広げていくために - 人の資源(民生委員など)の活用。 - 地元のグループを育てることがまず第一 - 異質な人を排除しないようにする - どうしたら若い人に帰ってもらえるかを考える(後継者の育成)
佐々並お気楽サロン	認知症の方の居場所、交流、健康づくり、相談、各種団体の協力	防災活動に注目。 ・月1回のお気楽サロンで災害について話合う。 ・男性の会員を増やすことで、災害時には力を貸してもらう。 ・防災時の連絡網を作る。